

B-53 セットイン衿つきアシンメトリー2way オール

B-54 ラグラン衿つきアシンメトリー2way オール



<作り方>

1 下準備

2 後身頃にまちをつけます

3 身頃に袖をつけます

4 脇から袖下を縫います

5 衿を作ります

6 身頃に衿をつけます

7 前裾角・まち裾角の始末をします

8 裾・袖口にゴムを通します

9 衿ぐりの始末をします

10 ボタンをつけて出来上がり！！

①裁断後芯を貼り、縫代始末が出来るところは先におきましょう
身頃・まちに芯を貼ります。



★衿に芯を貼ります。

1.全面に芯を貼る表衿は先に芯を貼ってから裁断すると縮み防止になります。

裁断は周囲 1cm~2cm 大きく粗裁ちします。

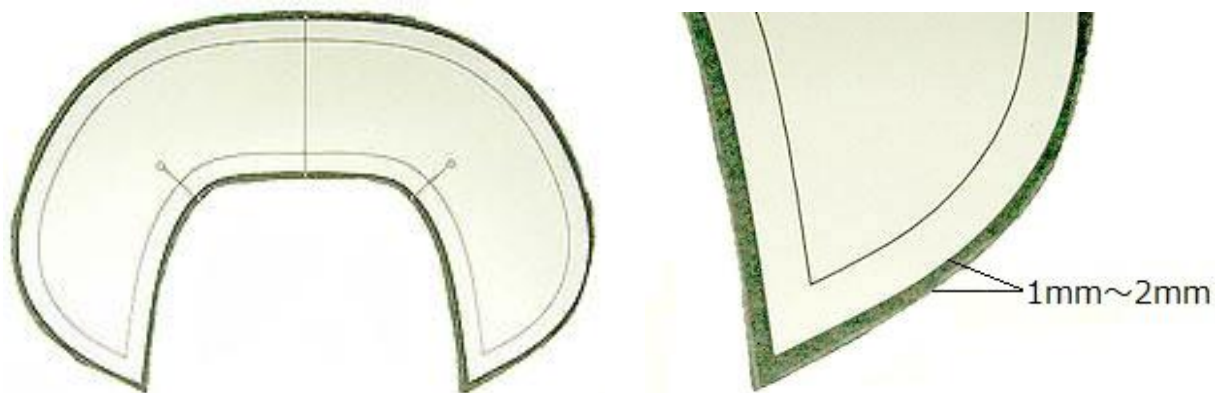


2.全面に芯を貼ります。

大きい面に芯を貼るときアイロンの底に糊がつきやすいので、
必ず当て布をしてアイロンをかけてください。

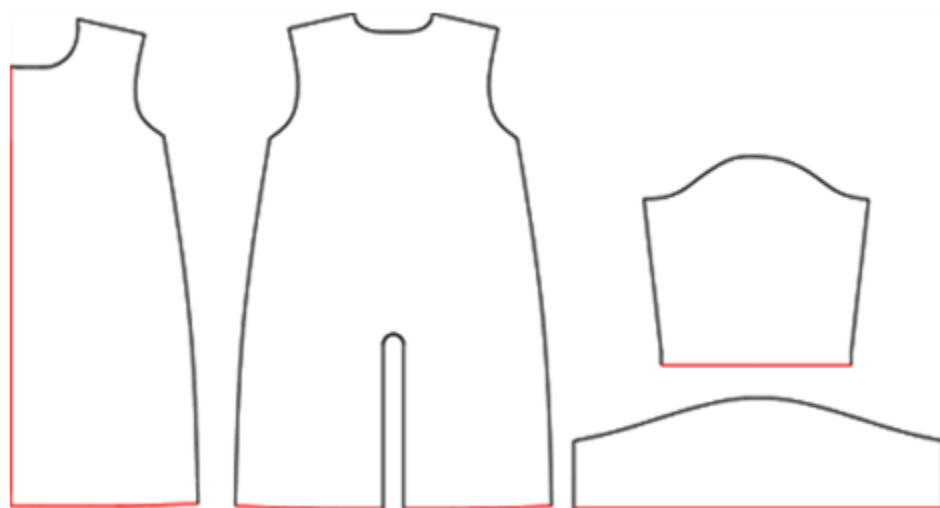


3. 衿を立体的に仕上げるため周囲 1mm~2mm 型紙より大きめに裁断してください。



4. 裏衿は型紙通りの大きさに裁断します。

縫代始末（ロック・ジグザグ）が出来る所は先におきましよう（下図赤い部分）



②後身頃にまちをつけます



③身頃に袖をつけます

★セットイン袖タイプの場合<B-53>

後身頃と前身頃の肩を接ぎ縫代始末をします。

★ラグラン袖タイプの場合<B-54>

肩接ぎ作業はありませんので、この工程を省いてください。



あとで、袖口にゴム通しのステッチをかけやすいように縫代をアイロンで折っておきます。



身頃に袖をつけ、縫代始末をします。



④脇から袖下を縫います



⑤ 衿を作ります

1. 表衿・裏衿を中表にして周囲を縫い合わせます。

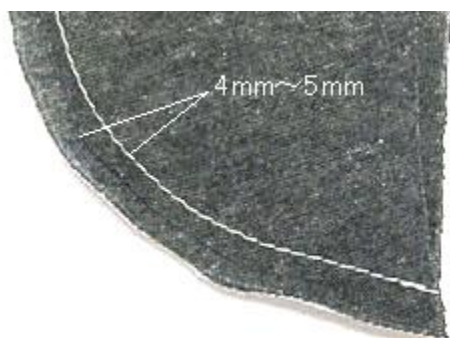
* 表衿周囲を大きく裁断していますので、表衿周囲をいせる感じで縫います。



下図のように立体的になります。

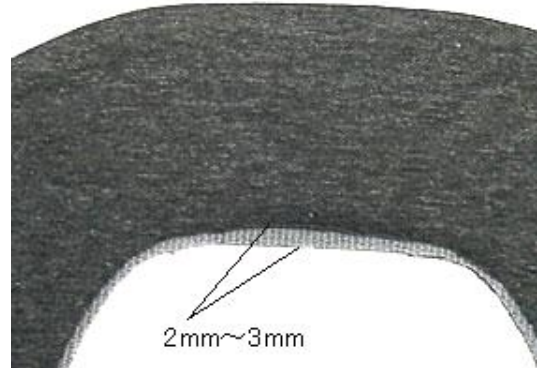


2. 生地が厚い場合は裏衿の縫代を 4mm~5mm になるようにカットします。



3.表に戻します。

表衿を大きく裁断していますので、えり付け位置で 2mm~3mm の差がつきます。



4.表・裏衿の衿つけ位置縫代端を揃えて、仮止めをします。

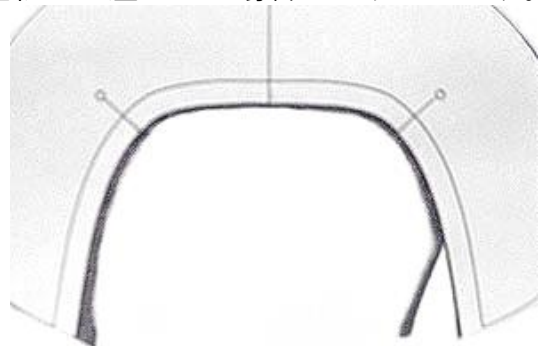
(仮止め・・・本縫いよりも粗いミシン目またはしつけで縫代を止めること)



5.衿の形を整えよう。

外側の縫代をカットした型紙を衿の上ののせます。

下図のように型紙との差がある場合はカットします。



★お好みで衿の周囲にステッチをかけてください。

⑥身頃に衿をつけます

衿を身頃にしつけで止めます。



衿つけ止まりは前中心です



衿をミシンで縫ったあと、見返しを前端で折り、しつけをかけます。



見返しを縫います。



縫代の始末をします。



表に戻すと下図のようになりますが、
先に裾の始末をしますので、ここでは表に戻さないでください。

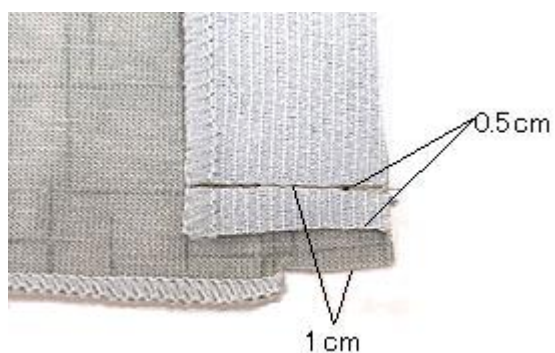


⑦前裾角・まち裾角の始末をします

見返しを折り、裾出来上がり線を縫います



生地が厚くゴロゴロする場合は、縫代をカットしてください



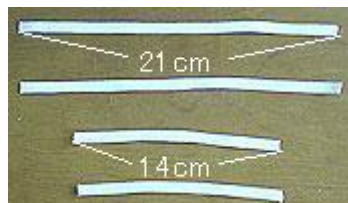
表に返してアイロンで整えます



⑧裾・袖口にゴムを通します

裾用（21cm2本）・袖口用（14cm2本）のゴムをカットします

袖口用は輪にします



まず、裾にゴムを通します

前身頃・まちの見返しには2cm巾ステッチをかけますが、裾にゴムを通すので、ゴムの端止めを兼ねて、ゴムをひっかけてステッチをかけます



裾にステッチをかけるので、ゴムをひっかけないようにゴムを中にいれてしつけをかけましょう
ステッチ位置の内側にしつけをかけておくと、ステッチでしつけ糸の縫い込みはありません



1cm巾ステッチをかけます



次は、袖口にゴムを通します

裾と同じようにゴムを内側に入れながらしつけをかけます
袖口は細いので、しつけをかけにくいですが、
ゴム入れ口を作り、あとでゴムを通すより簡単だと思います
お好みの方法で縫ってください



1cm 巾ステッチをかけます



⑨ 衿ぐりの始末をします

通常の端ミシンでは縫代の落ち着きが悪いため、2mm～3mm 巾のステッチがいいですね。



⑩ボタンをつけて出来上がり！！

